

NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

ORMZ ニュース第 56 号 (H28.5.23)

事務局：宮崎市生目台西 4-7-7 (メール info@ormz.or.jp) 文責：日高良雄



はじめに 平成 28 年熊本地震発生から 1 ヶ月半が過ぎようとしていますが、まだ多くの方が避難されておられます。どうか、健康に十分注意され、早く復興が進むことを心からお祈りします。

ザンビアの首都ルサカでも、停電、断水は相変わらずですが、皆様のご支援をいただき、山元香代子先生はじめ現地スタッフは、マラリア対策等、辺地医療の支援に取り組んでいます。

5 月 19 日に WHO が発表した「2016 年版世界保健統計」で、男女合わせた平均寿命が世界 194 カ国平均で 71.4 歳 (日本は世界一で 83.7 歳) と報告されています。ザンビア共和国の平均寿命は 2015 年版データで、175 位、58 歳とのことでした。それでも、乳児死亡率の低下やマラリア対策の向上などで、この 15 年間で約 5 歳も伸びているとのことでした。私達の活動が少しでも役に立てると嬉しいですね。

今回は、巡回診療等に同行した医学生及びセンシタイゼーション (啓発活動) に出かけた山本ひとみさんからの現地報告 (なお報告書をいただいた医学生 6 名のうち 3 名分) をお伝えします。

賛助会費納入のお願いと寄附受領証明書の送付について

・認定 NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会の事業年度は 1 月から 12 月です。賛助会費 (個人一口 5000 円、団体一口 10000 円) 及びご寄附 (金額は問いません) のご協力をよろしくお願いいたします。

・入金を確認しました際には、日高からその旨メールを差し上げます。また当法人は認定 NPO 法人であり、ご寄付 (賛助会費含む) いただいた際には、翌年の確定申告で税制上の優遇措置を受けるための寄附受領証明書 (賛助会費も寄附金と同様税控除の対象) をお届けしますので、確定申告の際まで大切に保管しておいてください。ご不明の点は日高 (info@ormz.or.jp) までご連絡ください。

・web 口座をお持ちの方はインターネットからも振込みができます。各銀行等にお尋ねください。

★郵ちょ銀行からの振替 口座記号 01720-9 口座番号 126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

★他の金融機関からの送金 郵ちょ銀行 店名：一七九、預金種目：当座、口座番号：0126351

加入者名 : NPO 法人ザンビアの辺地医療を支援する会

カナ名称 (全角) : トクヒ) ザンビアノヘンチイリョウヲシエンスルカイ

巡回診療に同行して (4 月 13 日ルアノ地区、医学生さんの報告 I)

三重大学医学部 6 年 鈴木雅大さんからの報告

(1) 見学内容 : 私は今回二度に分けて山元先生の活動に同行させていただきました。一度目はルアノ地区への移動診療、二度目は移動診療のための物品の買い付け・物品のパッキングでした。移動診療では首都ルサカから車で 5~6 時間の移動の後、ルアノ地区で山元先生の診療の様子の見学やマラリア迅速検査のお手伝い、体重、体温、血圧測定のお手伝いもさせていただきました。物品の買い付け・パッキングではルサカ市内での薬剤、必要物品

診療を待つ人々



(今回は白蟻対策のための掃除道具)の購入等を見学させていただきました。

(2)見学を通して感じたこと : 私が今回の見学を通して一番感じたことは山元先生をはじめとしたみなさんの熱意の大きさです。山元先生は2011年から診療活動をされているそうですが、5年間もの間このような活動を継続されていることに驚きました。私は国際ボランティアの団体に所属していた経験があるので国際協力をしている団体をいくつか見てきましたが、国際協力をするうえで一番挙



診療を行う山元先生

がってくる問題として継続性があると思います。団体によっては資金的な問題や人力的な問題で活動が継続できない場合もあると伺います。見学を通して感じた事ですが山元先生の活動自体も金銭的にも人力的にも恵まれているわけではないと思います。それでも山元先生は「自分がやるしかない!」という強い決心のもと活動されていてその姿がとても印象的でした。スタッフの方も私たちの感覚からすれば十分な給料をもらっているわけではない(ボランティアの方は無償)のに診療、検査、運転など、多くのことをみなさんと力を合わせて成し遂げている姿がとても印象的でした。山元先生の強い意志と行動力がこれだけ多くの人々の心を動かしているのだろうと感銘を受けました。

また、マラリアの検査を通して感じた事が陽性率の高さです。ルサカで病院実習をしている限りではマラリアの患者を診る機会はありませんでしたし、マラリアの患者はそれほど多くないと聞いていました。しかし、ルアノ地区でマラリアの検査を試みたところ、自分の感覚ですが6~7割の患者が検査結果陽性でした。個人的な考えですが、これらの地区はルサカに比べて蚊が多く、蚊帳などの防御策も十分に取れていないためこのように陽性率が高いのではと思いました。また、蚊帳を配布しても魚を獲るための網にしまったり、現地の人々の知識や意識の低さもこれらに拍車をかけているのではと考えました。しかし、迅速検査を導入するようになってからマラリアで死亡する患者が激減したとのことなのでこれも山元先生の活動の元に成し遂げられたことなのだなと思いました。



検査を手伝う学生さん

(3)謝辞 : 今回二度の見学をするにあたり、山元先生をはじめドライバーの方、health officerの方、ルアノ地区の方々など多くの方々のお力添えをいただきました。今後の人生で二度とできない大変貴重な経験をすることができました。ありがとうございました。

三重大学6年 星長俊輝さんからの報告

ザンビアでの1か月間で、非常に多くのことを学びました。特に山元先生と共にルアノ地区へ行ったことは、一生忘れません。片道6時間もの時間をかけて診療をしにいくなんて、日本では考えられないことだと思います。道中火傷の子供の診療をした際は、こんな劣悪な環境での診療なんて、と考えました。また先生が何度も、飲み水ではなく洗浄用の水だとおっしゃっていましたが、僕は彼らが飲み水に使用するのはないかと疑ってしまいます。そういった環境での診療は、日本からは想像できない苦勞だと感じました。ルアノ地区に到着してからは、こんな山奥に一体どれだけの患者がいるのだと驚きました。マラリア感染の子供の多さ、病気のように見えない大人、先生の話や全く聞かない親子など色々驚くことも多かったのですが、先生を始め、多くの方が情熱を持って診療をしていることに感銘を受けました。恥ずかしいことなのですが、最初はまるで先生がたった一人だけで診療をしていると想像していました。しかし実際は運転手やルワンダさんも情熱的に仕事をしていて、素晴らしいチームだと感じました。その分ザンビアという国に対する危うさも同時に感じました。上田先生も言っていましたが、自分の国のことなのにどうして変えようと

しないのか、と僕も感じました。山元先生がおっしゃったように、大統領や国境なき医師団に振り回されたり、官僚が支援金を使ったりなど聞き、自分の考えが変わりました。今までは支援はすればするだけよいと考えることがありましたが、今では相手国が自立するためにはそれではいけないと学びました。実際に体験したのですが、マラリア予防のキャンペーンに同行させてもらった際、先生がパッキングの日に50クワチャほどで購入した蚊帳を5クワチャという格安の値段で販売しているのに、村の人はタダでくれといった反応をしていました。ザンビアをこうした支援慣れとも言える状況からどうすれば改善できるのか僕にはまだわかりません。ですが山元先生の活動からザンビア全体が何かを考えて変わって欲しいと思います。短い期間でしたが本当にお世話になりました。特に鈴木が入院した際はご心配おかけしました。先生もお体にお気を付けてください。

ルアノで見た星空は一生忘れません。

藤田保健衛生大学 医学部6年 須藤湧太さんからの報告

ルアノの巡回診療 : ルアノ地区は、首都ルサカから車で山道を片道

6時間かかり、水や電気もなく、永遠と森が続くなかにポツポツと小さな家や村があるようなところでした。山元先生が活動している診療所は、その森のなかにあり、2つの小さな小屋に診療室、妊婦健診室、受付・薬剤配布室がありました。到着して初めての仕事は、患者の紙カルテを探すことでした。カルテは、4,000を超え、コンテナボックスの中に番号順に保管されていましたが、紛失してしまったものもあり、また、蒸し暑い中での作業はとても大変なものでした。次に、患者さんの血液を少量採取して、マラリア迅速診断キットにて感染の有無を確認する作業を手伝わせていただきました。次々と患者さんが来るため休むまもなく作業していましたが、マラリアの陽性率がとても高く本当に驚きました。日本でのマラリアの3大所見は、発熱、貧血、肝脾腫ですが、ここではそもそも栄養状態が悪く、所見からマラリアを推測するのが困難でした。ここでは、咳がでただけでマラリアを疑うとのことでした。最後には、暗くなった中、ライトで先生の手元を明るくしながら、山元先生の診察を見学させていただきました。

私立病院と郡病院の見学 : 郡病院を見学した後に私立病院を見学しました。見学した郡病院は、ルサカからそれほど離れていないところにあり、多くの患者さんが列をなしていました。医療機器やスタッフは十分とはいえ、まだまだ必要な医療サービスを患者さんが受けることができていると感じました。一方、私立病院は、アメリカからの寄付と裕福な大人の患者さんからの医療費で、重症な子供に対する医療費を無料で提供しているところでした。2つの病院をみることで、この国の医療事情や支援のあり方について考えることができました。

ルカタ地区の啓発活動 : マラリアや下痢の予防について、寸劇をとおしてわかりやすく説明している様子を見学しました。多くの人々が集まり、劇も盛り上がり、見ていてとても楽しかったです。

まとめ : 今回の活動のなかで最も印象に残っているのは、山元先生の“支援することの難しさ”のお話です。私は、ザンビア人の医師はなぜ山元先生の活動を手伝わないのか、ザンビアの政府機関はなぜ活動資金をださないのか、という疑問をもっていました。そこには、人々の考え方や経済環境など深い理由があり、ザ



カルテを探す様子



暗くなった中での診察



現地の子供と学生さん

ンビア滞在期間に、先生のお話や自身の体験から、発展途上国での医療支援のあり方の難しさを体感することができました。山元先生、貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

センシタイゼーション（啓発活動）実施報告（山本ひとみさんの報告）

5月6日、チサンバ郡ルアノ地区の奥まった地域トンプエで、マラリア啓発を目的に、ムレタ氏、シバンダ氏と共にセンシタイゼーションを実施してきました。

参加者はコミュニティヘルスワーカー、ヘッドマン、地域住民 計約130名（内子ども3割）でした。

現地に到着したのは12時15分。そのとき集まっていたのは、コミュニティヘルスワーカーとヘッドマン一人と地域住民数名のみ。他のヘッドマンや参加者が増えるのを待つ間、マラリア検査を実施。約40名（正確な人数ではない）検査をして29名が陽性反応。生後数か月の赤ん坊も陽性反応を示していた。マラリア患者が多いことが確認されました。

センシタイゼーション開始は、14時。開会のあいさつ、お祈り、ドラマグループの歓迎の歌と踊りと続いた。シバンダ氏により本日の催しの目的が説明された後、ドラマグループによりマラリアに関する寸劇が演じられた。シバンダ氏、ムレタ氏からマラリア予防の補足説明がなされた。続いて、下痢に関する寸劇があった。

途中、車が1台通りがかり、参加者の気がそれた。また、マラリア・下痢に関して、質問は？と問いかけても、一つも質問はなかった。きちんと理解しているからなのか、関心が低いのか、疑問に思うところであるが、マラリア予防のための蚊帳の重要性が伝わったのか、蚊帳を求めてから帰路につく人が多くみられた。

この催しを機会に、マラリア予防の意識が高まることを期待したい。



ドラマグループによる啓発



蚊帳を担ぐ現地の子供

以上

どうぞ今後ともご支援のほどよろしく申し上げます